

# トウルク応用科学大学交換留学レポート

釧路工業高等専門学校  
五十嵐 優太<sup>1</sup>

2012年12月19日

<sup>1</sup>電子情報システム工学専攻2年1番. *E-mail*: s110701@cc.kushiro-ct.ac.jp

## はじめに

私は 2012 年 9 月 3 日 (月) から 2012 年 11 月 16 日 (金) までフィンランド トゥルク応用科学大学 (Turku University of Applied Sciences) に交換留学生として在籍した。本レポートでは本留学での学習内容、結果、また自分自身の国際理解への意欲の変化について述べる。

## 1 本留学について

本留学は以下に示す要領で行われた。

**日程:** 2012 年 9 月 1 日～2012 年 11 月 16 日

**教育機関名:** Turku University of Applied Sciences (以下, TUAS)

**所属:** Faculty of Telecommunication and e-Business

本留学での日本出国から帰国までの行程表は表 1 のとおりである。また、日時は全て現地時刻である。

表 1: 本留学の行程表

日時	場所・行動
8 月 26 日 (日) 7:39	釧路発
8 月 26 日 (日) 17:15	北京国際空港着
8 月 27 日 (月) 10:55	北京国際空港発
8 月 27 日 (月) 14:25	ヘルシンキヴァンター国際空港着
9 月 3 日 (月)	留学プログラム開始
11 月 16 日 (金)	留学プログラム終了
11 月 22 日 (木) 19:10	ヘルシンキヴァンター国際空港発
11 月 22 日 (木) 20:55	フランクフルト国際空港着
11 月 23 日 (金) 14:20	フランクフルト国際空港発
11 月 24 日 (土) 07:00	北京国際空港着
11 月 24 日 (土) 08:05	北京国際空港発
11 月 24 日 (土) 12:50	新千歳空港着

### 1.1 留学のための準備

元々、英語は TOEIC の受験などでしか触れたことがなく、英会話は学校での授業以外、全く行なっていなかった。私が留学を決めたのは、今年の 4 月だったので英会話については特に準備することができなかったが、学校側が用意して下さった 4 回ほどの英会話の特別授業と自学自習を行った。

## 1.2 学習内容, 結果

TUAS では以下の 3 つのクラスを受講した.

- English foundation course
- Finnish for exchange students
- CCNA 1D

また, 上記のクラスを受講した他に特別プロジェクトを行った.  
以下にそれぞれのクラス, プロジェクトの内容を示す.

### 1.2.1 English foundation course

本講義では, 英語の基礎について学習した. 週 2 回 (火, 金), 各 1 時間 30 分ほどの講義で 9 月 11 日 (火) から 10 月 26 日 (金) まで毎週開講された.

第 1 週目の講義でレベルを把握するためのテストを受け, そのテストの結果から自分の足りないスキルを把握し, 改善を行なっていった. 講義内容は基本的な文法の学習からプレゼンテーション表現, カンバセーションなど幅広いものであった. 講義内容の詳細は以下の通りである.

- Grammar : Verb tenses, prepositions etc.
- Conversation practice
- Reading Comprehension exercises
- Writing
- Vocabulary-building
- Presentations
- Listening exercises

講義終了後, ほぼ毎回様々な宿題が出された. 例えば, Gerunds と Infinitives をできるだけ使い物語を書いてくる, ニュース記事を読んで要約してクラスメイトの前で発表するなどの宿題があった. 私は宿題をこなすことによって英語のスキルが上がると考えたため, 宿題を全て提出した. 先ほど記述した「物語を書く」という宿題では優秀者に賞品が渡され, 私はそれをもらうことができた. 宿題を毎回欠かさずに行うことによって, 英語に触れる機会が増え, とてもよい学習ができたと感じる.

プレゼンテーション表現の講義では参加している留学生全員が母国のことについて発表した. 私は「日本のスポーツ」について発表を行った. 私は「見せる」と「楽しさ」を重点に置き, プレゼンテーションを行った. プレゼンテーション後, クラスメイトや先生から多くのアドバイスをいただくことができたので, これらを今後活かしたい. また, プレゼンテーションについては「わかりやすい」「声が聞きやすい」「スライドが綺麗」「ジョークが面白い」という良い評価もいただけたので自信を持つこともできた. また, 他国の文化を知ることができ, とても有意義な時間を過ごせたと感じる.

### 1.2.2 Finnish for exchange students

本講義では、フィンランド語の基礎、日常生活で役立つ表現を学習した。週 1 回 (月), 1 時間 30 分ほどの講義で 9 月 17 日 (月) から 11 月 26 日 (月) まで毎週開講された。私は留学期間の関係で 11 月 12 日 (月) まで参加した。

本講義では以下の内容について学習を行った。

- Greetings
- Important phrases
- Food, shopping
- Introducing myself, my family
- Verbs

フィンランド語は発音、作文、共に難しくとても苦労した。フィンランド語では格の変化も施さなければならないので、英語以上に習得の難しい言語であると感じた。しかし、私はフィンランド語が好きになり、フィンランド語をもっと勉強したいと感じた。講義は日常生活に使えるフィンランド語の学習を中心に行われたので、とても有意義な時間を過ごせたと感じる。学習した内容を具体的に挙げると「自己紹介・家族の紹介方法」「買い物・注文の仕方」「待ち合わせの仕方」などを学んだ。私は学習したことを実際に生活上で使い、役立てたりもした。もちろん、しっかりと理解できるわけではないが、少しでも理解できたときは嬉しく感じた。

私はフィンランド語を学ぶことによって、「語学学習」の楽しさを知ることができたと感じる。私は語学習得が得意ではなく、英語の学習も苦労していた。

### 1.2.3 CCNA 1D

本講義では、Cisco 社が提唱している資格試験 CCNA を取得するための知識、技術を学習した。CCNA 1D は主に情報工学の基礎、コンピュータネットワークの基礎、家庭・スモールビジネス用のネットワーク構築について学習することができた。Cisco 社が提供する Cisco Networking Academy [1] というサイト上で学習した。基本的にはウェブ上で学習することが可能なので、必ず講義に出なければならないというわけではなかった。TUAS では、この学習を進める場所としてラボが用意され、そのラボで学習することも可能であった。ラボにはサポートしてくれる教官がいる他、スイッチなどの実機が揃っており、それらを実習のため使うことができる。機材の面では TUAS はとても良い環境であった。私が学んだ CCNA 1D では、基礎的な知識を学ぶことが多くラボを利用する機会は少なかったが、先述したサイト上でネットワークの基礎知識について学習することができた。

実は、釧路工業高等専門学校 情報工学科のカリキュラムに CCNA に関する講義が含まれていて、私は一度 CCNA に関する講義を受講したことがある。しかし、今回は英語で学ぶことにより、ネットワーク用語や知識の英語での表現方法を学ぶことができた。また、記憶から抜け落ちている知識などを復習することができた。

#### 1.2.4 特別プロジェクト

私は TUAS にて「コンピュータネットワークの基礎」をテーマに特別プロジェクトを行った。このテーマを設定した理由は、私が今一番興味を持っているネットワーク分野について深く学びたいと考えたためである。当初、センサネットワークに関する講義に参加したが私の専門分野からかけ離れており、他の留学生に迷惑をかけることになると考えたため、このテーマに変更させていただいた。本プロジェクトの流れは以下のとおりである。

1. TUAS の先生方とのプロジェクト決定ミーティングにて、自分のプロジェクトと担当教官が決定される。
2. CCNA 1D で学習している内容を自分自身で深く学習し、レポートをまとめるプランを担当教官に提案し、受諾される。
3. Cisco Networking Academy 上でネットワークの基礎知識について学習する。また、他の資料も参考にし、知識をまとめる。
4. 本プロジェクトの結果をレポートにまとめ、担当教官に提出する。

結果として上記に沿った形でプロジェクトを進行することができた。プロジェクトレポートには以下に挙げる事柄とともに、私が考えるコンピュータネットワークについて簡単に記述した。

- 情報工学の基礎について
- どのような場所で、どのようにコンピュータ・ネットワークが利用されているか
- ネットワークデバイスはどのように使用されているか
- イーサネットワークの歴史について
- ネットワークデバイス (ハブ, スイッチ) の基礎について
- コミュニケーションの本質について
- イーサネットワークの階層化について
- ネットワーク構築の計画について

私は来年からシステムエンジニアまたはネットワークエンジニアとして働く予定であるので、本プロジェクトレポートはこれからの私の技術者としての生活に役立つものとなったと感じる。

本プロジェクトを進めるにあたって、ネットワークの基礎知識を学ぶとともに英語も学習することができた。また、担当教官にプロジェクトプランを提案するなどコミュニケーションをとることを重要視することで、円滑にプロジェクトを進めることができたと考える。

#### 1.2.5 自学自習

留学中、講義のない時間は自学自習を心がけた。TUAS Faculty of Telecommunication and e-Business の講義が行われる ICT-house には図書館が付属しており、自由に使うことができる (ただし、本のレンタルやコピー、印刷などは有料)。また、Turku 市内中心部には Turku City Library [2] がある。どちらの施設も Spark という無線 LAN 接続システムが採用されており、学生は自分の ID とパスワードを入れることにより、自由に使うことができる。私は自学自習のために、これらの図書館を利用した。

## 1.3 交流と生活

本節では、留学中の交流と生活について記述する。

### 1.3.1 留学中の交流

フィンランドは留学が盛んであり、多くの国から留学生がきている。そのため、いろいろな人たちと交流することができた。また、学生団体 ESN が開催するイベントも多くあり、それらに参加することによって様々な交流ができたと感じる。

その他にも同じ講義で知り合ったクラスメイト達との交流を深めるため、自分からパーティーを開催した。積極的に交流することによって、いろいろな人と知り合い友人になれただけでなく、考え方や意識の違いなども感じることもできた。さらに英語で話す機会も増え、積極的に英語を話すきっかけにもなったと考える。

### 1.3.2 留学中の生活

留学中の生活では、ほぼ困ることがなかった。フィンランド国内では英語がほぼ通じ、またフィンランドの方々はとても優しく親切であるので、生活を苦に感じたことはなかった。また、私を含む3人(いずれも他国からの留学生)で3LDKの部屋をシェアしたが、特に問題はなかった。逆にお互いの近況や体調を確認することができ、安心して過ごすことができた。

## 2 留学・国際理解への意欲

本章では、留学参加前と参加後の心境・意欲の変化について記述する。

### 2.1 留学参加前の心境

留学に参加する前は「いずれ海外に出る必要があるのだから、チャンスがあるならば行ってみよう」という心境であった。私は英語があまり得意ではなく、自信がなかったため参加前はかなり不安を感じていた。また元々、自分には積極性が欠けていると感じていたため、その点も不安要素の一つであった。しかし、この留学が「自分を変える」きっかけになればと思い、留学参加を希望した。私が本留学を決めた理由、目的は以下のとおりである。

1. 海外での生活を経験し、「海外への抵抗」をなくしたかったため。
2. 英語で会話する環境に溶け込み、「英語を話すことへの抵抗」をなくしたかったため。
3. 海外で友人を作り、様々な文化を知りたかったため。

## 2.2 留学参加後の意欲の変化

留学参加後、「海外へ出る」意欲が参加する前と比べ格段に変化した。留学参加以前は「今後海外に出る必要がありそうだから」という消極的な気持ちであったが、留学参加後は「自ら海外へと飛び出していける人材になりたい」という積極的な気持ちに変わった。グローバル化が進んでいるから海外へ目を向けるというのは、今や当たり前のことであり特別なことではない。そのような時代の中で、若いうちに海外で様々な経験をし、このように意欲に変化が生じたのはとても貴重な体験である。この意欲を持続させ、将来、世界で活躍するエンジニアになりたいと考えている。

## 2.3 留学参加後の次回海外留学への意欲

本留学の3ヶ月間というのはあっという間で、留学プログラムが終了したときは、さらに留学を続けたいという気持ちであった。次回、もし海外へ留学する機会があれば積極的に参加したいと感じる。また、本留学よりもさらに充実させるため、しっかりとした計画を練り多くのことを学びたいと考える。

## 3 おわりに

3ヶ月間というのは長いようでとても短い期間であった。後悔することも多くあるが、それでも私はとても有意義に過ごせたと感じている。「学生」という身分である今のうちに海外に出て様々なことを体験できたこと、海外に出るということをも具体的に考えることができたこと、これらは何ものにも代えがたい出来事と考えている。こちらでの生活、学習、体験は、これからの人生の中で活かすことができるであろうし、活かさなければならぬと感じている。将来、この経験を活かせるよう常に外へ目を向けることを忘れず、努力していきたいと考えている。最後に留学を支援して下さいました釧路高専 情報工学科 神谷先生、本間先生、電気工学科 小松先生、その他多くの先生と職員の方々、また TUAS での担当教官 Yngvar 先生、コーディネーターの Anne さん、チューターの Aku 君、Jani 君、奨学金制度を提供して下さいました日本学生支援機構、釧路高専に感謝申し上げます。

## 参考文献

- [1] Cisco Networking Academy Homepage,  
”<http://www.cisco.com/web/learning/netacad/index.html>”.
- [2] Turku City Library, ”<http://www.turku.fi/library>”.